

平成27年度文化財保護審議会 会議録

- 1 開催日時
平成28年2月8日（月）
開会 午後1時30分
閉会 午後3時30分
- 2 開催場所
尾張旭市役所3階 303会議室
- 3 出席委員
斎場和志、林宏、桐原千文、奥野絵美 4名
- 4 欠席委員
なし
- 5 傍聴者数
0名
- 6 出席した説明者
公益財団法人 瀬戸市文化振興財団 埋蔵文化財センター所長 岡本直久
- 7 出席した事務局職員
教育長 玉置基、教育部長 河村晋、文化スポーツ課長 三浦明、
文化スポーツ課長補佐 西尾哲弥、文化スポーツ課係長 鈴木直子、
文化スポーツ課副主幹 林正信、文化スポーツ課 加藤拓資、加藤有理香 8名
- 8 議題等
 - (1) 議題
 - ア 会長職務代理者の選出について
 - イ 平成27年度文化財保護関連事業の実績等について
 - ウ 卓ヶ洞古窯群の発掘調査について
 - (2) その他
- 9 会議の要旨

会長	ただ今から、平成27年度尾張旭市文化財保護審議会を開催いたします。 尾張旭市文化財保護条例の規定による定足数に達しておりますので、会議を始めたいと思います。 議題に入る前に玉置教育長よりあいさつをお願いします。
教育長	(あいさつ)
会長	ありがとうございました。 続きまして、委員の皆さまの自己紹介をお願いしたいと思います。
委員	(自己紹介)
会長	ありがとうございました。 次に、市職員の皆さまの自己紹介をお願いしたいと思います。

事務局職員	(自己紹介)
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>では、議題に入らせていただきます。本日の会議は、議題が3つございます。</p> <p>まず議題（1）会長職務代理者の選出を行います。</p> <p>次に議題（3）卓ヶ洞古窯群の発掘調査についての説明をしていただくため、公益財団法人 瀬戸市文化振興財団 埋蔵文化財センターの岡本所長にお越しいただいておりますので、議題（2）の前に議題（3）を行い、最後に議題（2）の順に進めますので、よろしくをお願いします。</p> <p>それでは、議題（1）会長職務代理者の選出について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局（加藤）	(資料1に基づき説明)
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいまの説明について、御意見、御質問はございませんか。</p>
各委員	(「なし」の声)
会長	<p>御意見がないようですので、私から会長職務代理者を指名させていただきます。林委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p>
各委員	(「異議なし」の声)
会長	<p>それでは次に、議題（3）卓ヶ洞古窯群の発掘調査について、岡本所長から御説明をお願いします。</p>
岡本所長	(資料3に基づき説明)
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、御質問がありましたらお願いします。</p>
林委員	<p>1月21日の「郷土の歴史講座」で名古屋市博物館の藤井先生の講演をお聞きしました。卓ヶ洞古窯の遺物の現物を見せていただきました。</p> <p>埴輪が出てきているということが重要だとおっしゃられていました。埴輪は藤井先生が形象埴輪の可能性があるとおっしゃられていましたが、それは事実ですか。</p>
岡本所長	<p>藤井先生が「形象埴輪かな」と言っていたものを私が「形象埴輪だ」と言うだけの知識が藤井先生よりないもので話しづらいですが。</p> <p>実はこれです。確かに変な形をしています。形象埴輪の形がどういう形のものか分からないと、これがどの部分の物かとは分からないというところがあります。</p> <p>形象埴輪はいろんな形がありますので、それを特定するだけの資料はないです。ただ、一般的に形象埴輪以外に円筒埴輪とかありますが、そういうものではないので形象埴輪しかないかなということですね。</p>

会長	<p>あと1、2点よろしいでしょうか。</p> <p>最終的には作ったものをどこへ持って行ったのかという話がありますか。</p>
岡本所長	<p>多分、いろいろなところに行っているかと思います。どこへ持って行くのかということは猿投窯というところで分けられています。これはほとんど同じ形ですので、実際どこへ持って行ったのかはよくわかりません。</p> <p>わかるとしたら埴輪ですね。埴輪は基本的に古墳に持って行くものです。藤井先生も「この窯は、この記号というのが出てきています。埴輪に色んな記号が書いてあるということから、その記号が入っている埴輪が置かれている古墳は、その窯から持って行ったのだろうということが分かりますよ」とお話をされていました。</p> <p>藤井先生が一番気にされている埴輪は、ものすごく大きく、厚いもので、こういう埴輪を置いている古墳は名古屋の熱田にあります断夫山古墳という尾張の大将がいただけるという古墳しか考えられないとお話しされていました。</p> <p>そうすると卓ヶ洞古窯のものを断夫山古墳までわざわざ尾張旭から持って行ったのかということになります。先日、愛知県埋蔵文化財センターの職員と話す機会があり、その話をしましたら、「いやいや、春日井にもこのような大きなものがありますよ」と言われました。</p> <p>そのあたりについては、報告書にはなかなかそこまで突きつめたところまでいっていませんので、今後、専門の先生を交えてこの埴輪がどういう性格のものなのか、どういうところへ行ったのかということを含めた話し合いの場を持とうかなと計画を練っています。</p>
奥野委員	<p>今回の2号窯の調査で遺物が過去に全て出土されていたことについてですが、堆積層とか位置図を調査されて、出土相違の関係とか遺物が過去にどこから出土したのかということについて、残っている図面などで確認し、整理することは可能でしょうか。</p>
岡本所長	<p>これはとても大きな問題がありまして、実は過去の遺跡地図を確認すると、2号窯といっている窯があちこちにあるのです。発掘調査をした段階で2号窯といっていたものがどれかというのが実際確定までできないというのが一つ。それから、資料が火災によって全て燃えてしまって、遺物の台帳とかが全然残っていません。発掘調査をして出てきたものはあるのですが、それに書かれている内容というものが非常に簡単なもので、しかも台帳が残っておりませんので、そのあたりの確認はできない状況となります。</p> <p>今回、当然2号窯のもので、過去の2号窯の調査をして</p>

	出てきたものとの接合などもやってみたのですが、結局1件だけ出てきただけでした。やはりはっきりさせることまでは出来ませんでした。
会長	この3号窯にある「砥石」とは何でしょうか。
岡本所長	おそらく窯を焼いていた人が自分の生活の中で使っていたものでしょうね。実際には、これ以外に土器も出てきています。 その土器と言うのは、基本的に窯で焼くものではなく、野焼きにするものでして、職人の使っている道具などもこの周辺から出てきていることがわかっています。
林委員	この卓ヶ洞古窯や城山古窯は、私たちからするとずいぶん名古屋の台地から遠く離れた不便な場所のような気がします。 例えば、焼いたものを断夫山古墳に供献しようとなったら、矢田川の流れを利用して運ぶでしょう。 また、春日井の古墳に供献するならば、矢田川を下り、庄内川分岐点まで行き、またさかのぼれば、随分楽に運べますね。昔のことを考える時に船の運行を考えるべきではないかと思っております。 私は山越えて志段味まで行くのは、たいへんな森林地帯を越さなければいけないし、6、7世紀にそういう道があったかという問題もありますし、川の重要性があったと思います。 今回の発掘調査の遺物の中に、土錘がいくつも出てきているのですが、土錘というのは川で魚を捕まえるための網の重りなのではないでしょうか。
岡本所長	そうですね。網を周りに付け、川に沈め、魚を捕るための道具ですね。
林委員	随分、古代でもこのように普通に窯跡から土錘とかが出るものでしょうか。
岡本所長	そんなことはないです。 須恵器を焼く窯で、土錘を焼くというのはそんなに多くなく、数えるほどしかありません。基本的にこういう窯で焼かなくても野焼きのできるもので、そういうことをするのは、あまりないことだと思います。
会長	ありがとうございました。 3月には報告書が出るそうですので、またよろしく願います。
岡本所長	(退室)
会長	続いて、議題(2)平成27年度文化財保護関連事業の実績等について、説明をお願いします。
事務局(鈴木、林、加藤(有))	(資料2に基づき説明) (「ざい踊り活動記録DVD」現在編集中のものを試写)

三浦課長	<p>今回、保存会の方と制作するにあたって、何が保存会として欲しているのかを調査しました。</p> <p>手甲・脚絆などの衣裳の作り方は、保存会の高齢の方しか知らないということなので、作り方を残してほしいというリクエストもありまして、こういった作り方を、1つずつ作る工程の様子を残しています。</p> <p>「ざい」の作り方についても高齢の方しか今は作っていないものですから、若い方にもわかるようにどうやって「ざい」を作っていくのか、色粉で染める、「ざい」の切り方、竹に付けるところまできちんと残しています。</p> <p>次に着付けです。なかなか着物の着付けは今の若い人たちは着物を着る機会がないので、着付けも1つ1つ残してあります。</p> <p>当初は唄と踊りを残せばいいのかなという形で始まったのですが、実は保存会の方たちが望んでいるのは、道具に対してもきちんと残してほしいということでした。</p> <p>そのため、本来なら30分くらいの目標でしたが、1時間くらいになってしまいました。でも、本当に保存会が望んでいるDVDになっているということで最終の編集作業中であります。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>平成27年度文化財保護関連事業の実績等ということですが、何かございますか。</p>
林委員	<p>3つばかりお願いしたいのですが、2ページの史跡等保存公開事業の(3)歴史民俗フロアのミニ企画展のアからエまでのうち、1つは見落としてしまって、3つしか見ておりませんが、本当によい企画でして、出されている品物は大変少ないですが、5分程度で疲れずさっと見ることができていると思います。</p> <p>その中で、一番最後の「新春七福神展」は本当にいい企画だと思います。戦前、昭和20年より前にこの瀬戸線沿線のこの地域にあるお寺がそれぞれ大黒様、弁財天様など1つ1つ記念品を出し、お参りした方には小さな陶器で作られた像を配ったようですね。最後に龍泉寺に行って、7つの像が全部揃うと、船をもらったという記録が残っていました。船とはどんなものなのかと実物を知らなかったもので、陶器で出来た船を出して、他のお寺で集めた7つの像を乗せて、七福神・宝船となるということが理解できてとても参考になり嬉しかったです。</p> <p>これは市民から寄贈があったのですか。それは最近でしょうか。</p>
事務局（加藤（有））	<p>昨年度に寄贈されて、台帳を整理いたしまして、企画展に出させていただきます。</p>

林委員	<p>昭和10年代、すごく盛んだったそうで、ありがたいものを見ることが出来て嬉しかったです。ありがとうございました。</p> <p>2点目は、4ページ目の(6)史跡等の整備というところで、事務局から殿様街道入り口の看板のことを言っていただき、ありがとうございました。お願いして7年目となり紆余曲折もあり、前々の教育部長の確約をいただいて待つておりましたところ、事情があったかもしれませんが、なかなか進展しませんでした。</p> <p>昨年予算が通り喜んだのですが、今度は県の方で危険とのことでとても難しいなど不安になっていました。しかし、民間の方でも協力をいただけるようだというお話をいただいて、また明るい希望が出てきました。その後、そちらの民間の方に依頼した結果、いい見通し、明るい展望はあるのでしょうか。</p>
事務局(林)	<p>まだ、実際は相談に行っていない状況でございますので、これからお話をさせていただいて、どれくらいの大きさの看板ができるのかといったところを順序良く進めていきたいです。</p>
林委員	<p>その前を通ると、車がいつも停まっているスペースですよ。その車が停まっているところを動かさなければということで、そんなに簡単に了承して頂けるものかと不安はあります。せつかく今年予算があるなら、もう期間が短いので、実行していただきたいと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思っています。</p> <p>3点目ですが、5ページの(9)「新春ふるさとカルタ会」ですね。ふるさとガイド旭が協力させていただいておりますが、今年は54名という人数でやや少ない人数ですが、成人を含め中学生が19名、小学生は35名という状況です。6年ほど前にスタートした新春カルタ大会ですが、小学生の数は70名くらいです。それと比べると半分くらいに減っています。たいへんなことです。</p> <p>小学生たちが魅力を感じ、かつ、新しい方々が勉強になるからということで、もっと多くの方々に参加して頂けるようにしていかなければ、ちょっと企画としては大きな問題が残るのではないかと考えています。どうしたらいいかとふるさとガイド旭としても非常に頭を痛めています。また、いろいろと工夫をお互いして、来年を迎えたいなと思っていますので、よろしくお願ひします。以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございました。今、お話の中で答えをいただいておりますのでよろしいですか。</p> <p>また、「新春カルタ会」については、実行委員会で検討しながら子どもが喜んで集まるような形になるようよろしくお願ひします。</p> <p>では、それ以外の所ではよろしいでしょうか。</p> <p>1つだけよろしいですか。5ページ「小学生向け史跡めぐり」ですか、見た時はたいへんありがたいなと思いました。参加人数</p>

	<p>はこれから集まっていくのだらうと思うのですが、1つお願いしたいのは、できるかどうかは別として、学芸員さんがみえるのですから、各小学校を回って頂くというような企画をして頂けると、もっと子どもたちも昔のことに関心を持つのではないのかなと思います。</p> <p>今回、私たちの地区でも学芸員さんに古墳のお話をしてもらったのですが、小さいお子さんからお年寄りに対して、本当に分かりやすく面白いお話をして頂きました。</p> <p>それは、先ほど玉置教育長もお話しされていたような半田の話もそうですし、実はあま市もそういう学芸員さんによる取り組みをされているので、あそこは甚目寺観音がありますから、それらさまざまな歴史的にも古いところを中心にしながら学芸員さんが各小学校を回るのです。だから、難しいかもしれませんがもっと小さい子どもたちにも文化に関われる機会をとって頂けると、先ほどのカルタ会のこともそうですが、こういう「わくわくたんけん隊」で子どもたちの関心が高まってくれば、少しは増えていくのではないかと思います。</p> <p>学芸員さんが先ほど林委員がお話された企画をされたり、各小学校を回ったりすることで、ずいぶんと違ってくるのではないかなと思っていますので、例えば「昔の話」というのを小学3年生対象で学習をしていますので、その場でお話しするといったことなどぜひ考えていただけるとありがたいなと思います。</p>
林委員	<p>本当に同感ですね。</p> <p>たとえば、現在、各地のいろんな古い集落の中で、200年と続く民家がどんどんなくなっています。尾張旭は幸いなことに、お城の横に「古民家」としてドシンと立派にひかえております。しかし、あれを30、40年ほど前に移設した時、私は失敗したと思っております。民家だけが1つ置いてあるだけです。あの民家がどのような環境の中であって、この位置にあり、お庭が前にあって、井戸が掘ってあってといった生活感があることを踏まえての民家の移築という発想が全くなかったです。建物だけを保存すればいいというわけじゃないです。</p> <p>齋場会長がおっしゃるように、「昔の生活」がどうだったかという具体的なお話をするには、そういう広い意味を含めた環境をきちんと持った移設の観点が必要だったなと身を持って感じました。</p> <p>今頃申し上げてもどうしようもないでしょうけど、もう少し文化行政を考える時には幅広い観点と柔軟性を持って、これからはやらなければいけないと思います。</p>
三浦課長	<p>齋場会長や林委員からおっしゃっていただいたように、今年度、初めて学芸員を採用することが出来ました。今まで、文化庁の方からも専門知識を入れるようにと各県、各市町村あてに「こうい</p>

	<p>う文化を守っていくには、専門知識のある方を入れてやっていきなさいよ」とありました。</p> <p>今年度、加藤学芸員が在籍したことにより、先ほど言いましたような「ミニ企画展」や「小学生向け史跡めぐり」も実施することができました。あと、地域への出前講座も専門的知識の観点で行うことができました。今後につきましても、この1年のベースを基準にして、もっとできることがあればその働きを活用して、プラスアルファをしていきたいと思っておりますので、御意見等を聞かせていただけたらと思っております。</p>
会長	<p>本当に素晴らしいと思えました。</p> <p>加藤学芸員さんがみえて、いろんな事ができ、それ以外にも大塚古墳のパンフレットも最終的には学芸員さんに見ていただいてできあがりしましたし、もっと学芸員さんがいるよということを宣伝していいと思います。地域でどんどんその働きを活用できるような体制ができるといいなと思います。来年度もぜひよろしくお願ひしたいなと思っております。</p>
桐原委員	<p>2ページの2 史跡等保存公開事業の先ほどから話題にあがっています(3) 歴史民俗フロアのミニ企画展ですが、どれくらいの方がご覧になったのかということは、どのような形で把握されていますか。</p>
事務局(林)	<p>無人ですので、アンケート調査はいただいておりますが、実際、何名様が入られたかということは、今のところは把握できてないという状況であります。</p>
桐原委員	<p>学芸員のお仕事はいろんなお話をしたりと多岐にわたると思いますが、ものを通して話をするのは1つの大きな仕事になってくると思います。せっかく、ミニ企画展でもものを出しておられるので、この企画で何か講座をしていただく。もしくは小・中学校から来ていただいてお話していただくとか、もし学校から来るのが難しいのであれば、学校へ行って話していただくといったことなど、このことを1つのきっかけにして、膨らませていただけたらいいと思います。</p> <p>歴史民俗フロアで紹介しているのだから、「じゃあ、御家族でも何かの時に寄って見てください。」というようなことを含めて学校でお話し頂けるとせっかくの企画も広く活きるのではないかなと思います。</p> <p>文化財とは、ものの意味をきちんと伝えていく形も大事なかなと思います。せっかくものを出しているので、できたらそういう試みをしていただけるといいなと思います。</p>
奥野委員	<p>以前、ざい踊りの存在を知って、市民の方がそういった活動に取り組まれていることを見て、すごく素晴らしいなと感じています。皆さんは、そういう方々と日常的に接して、特に後継者問題</p>

	<p>などがあると思いますが、こういう方々から課題とか要望とか不満といったことは、特に何か伺われることはありましたか。</p>
事務局（鈴木）	<p>ここにも上げさせていただいておりますが、やはり後継者が高齢化しておりまして、なかなか小・中学校の方たちが入ってこないという状況です。今、保存会の方にも積極的に小学校で出前講座という形でその保存会の活動をPRする機会をたくさん設けていただいています。そこで新たに入ってもらえる方がいらっしゃいますということ、また、市としてもホームページで活動の様子などを掲載して、それをご覧になってお問い合わせを頂いている状況です。ただ、それ以外にももう少しPRの方法を検討していかなければならないと思っております。</p>
奥野委員	<p>そういう活動をされていらっしゃる方々は、他の市町村ですと学芸員さんがいらっしゃる博物館とか資料館とかそういう場が中心になってくると思いますが、尾張旭のそういう市民の方が活動の場として使われていらっしゃるの、特にどちらになっているのでしょうか。</p>
事務局（鈴木）	<p>活動によって異なるのですが、地元のふれあい会館という集会所です。そういったところが練習の場となります。</p>
奥野委員	<p>ありがとうございます。</p>
会長	<p>あとはよろしいでしょうか。それでは、議題2のその他に移りますが、事務局から追加で報告事項があるとのことですので、説明をお願いします。</p>
事務局（林）	<ul style="list-style-type: none"> ・市制45周年「平成27年度市民祭『警固』」の実施結果について ・「平成28年度 城山公園整備に係る埋蔵文化財確認調査」の実施について ・「平成28年度 どうだん亭くぐり門修繕工事」の実施について（3点について報告）
会長	<p>特に今の件で、ご質問等はよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、全ての議題が終了いたしました。これをもちまして、平成27年度 文化財保護審議会を終了します。</p> <p>ありがとうございました。</p>